

I 令和2年度 事業計画

1. 基本方針

昨年、当会は法人設立15周年・介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～開所10周年の節目を迎えることが出来ました。これまで支えて下さったご支援者様、ボランティアの皆様、地域の皆様をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

今年度は、当会のモットー「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」いく活動を更に推し進め、介助犬を通じて肢体不自由者の自立と社会参加を支援することは勿論、介助犬適応者になる障害者に限らず、障害児、肢体不自由以外の障害、その他のニーズに対しても積極的に犬に対するニーズを把握し、さらに医療現場等において犬が持つ力を活用すべく医療専門職をハンドラーとして養成する活動を拡充します。

今年度事業計画において、特に傾注すべき活動は次の通りです。引き続きのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

1. Assistance Dog International (アシスタンス・ドッグ・インターナショナル) への認可申請

補助犬育成事業者の国際的な連合であるADIの認可団体となるべく2019年3月に認可申請を行いました。今年度は査察を受け、世界基準に則った事業運営を行うことで繁殖等での国際ネットワークの活用を目指します。

2. 肢体不自由者等への情報提供、相談支援

国内各地のリハビリテーションセンター、せき損センター等の専門機関で介助犬相談会・体験会を実施します。今後は定期開催を目指します。また、介助犬の貸与だけでなく、障害児・者への犬を活用した支援を行います。

3. 介助犬・身体障害者補助犬法の啓発

介助犬・身体障害者補助犬法の啓発を目的に介助犬フェスタ2020をはじめ各種イベントを実施します。SNS(ソーシャルネットワークサービス)・マスメディアを活用した普及啓発・広報活動を展開します。

4. 医療現場への犬導入支援

公益的な活動として取り組んできた動物介在活動(AAA)／動物介在療法(AAT)を犬による動物介在介入(Dog Intervention)として充実させ、医療専門職をハンドラーとして養成する等の活動を拡大します。

5. 経営基盤の強化

安定した事業継続のために、寄付収入増収施策および収益事業拡大施策を実施します。

社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長 伊藤 利之

2. 取組事項

1. 介助犬育成事業

リハビリテーション専門職と連携を図り、介助犬希望者に対して個々の障がいにあった介助犬を提供する。介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～に於ける体験・合同訓練および在宅訓練の指導を行う。

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬を育成し、3～5名の肢体不自由者(新規1～2名、代替え2～3名)に対し介助犬の貸与を目指す。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 25頭の新規候補犬に対し、評価及び訓練を実施する。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して預かり訓練、訪問指導を実施する。

(3)繁殖

① 1～2回の出産を行い、6～12頭のパピーを確保する。

② 14頭の繁殖犬(雄3頭、雌11頭)を確保する。(新規5頭、引退1頭)

③ Career Dogs Australia より凍結精液を購入する。(助成金を活用)

④ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、1～2回人工授精手術を実施する。

⑤ 岐阜大学へ凍結精液の作成に関して相談を行う。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 介助犬使用者22名に対し、継続指導を行う。

② 「使用者の集い」を2020年10月31日(土)～11月1日(日)に開催する。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

介助犬使用者の就労希望に対し、就労支援機関と連携を取りながら個々に合わせた就労・継続支援を行う。

2. 普及啓発・広報活動

介助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上および寄付収入確保を目的に、普及啓発・広報活動を展開する。

介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業、マスメディアなど、対象者ごとに必要な情報が提供出来るよう、情報の内容・形態、広報媒体の最適化を図る。

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 介助犬フェスタ2020の開催

介助犬認知度向上を目的に今年度10回目の継続実施をする。5月23日(土)開催予定。

② 恒例イベントの継続実施

・介助犬総合訓練センター

一般見学会

: 原則毎月第2土曜日(5月、3月を除く)

- 子供向け見学会 : 8月21日(金)
- オープンハウス : 3月6日(土)
- 団体見学受入れ等 : 年間50件

・本部

- 介助犬教室 : 8月22日(土)

③ 肢体不自由者等への啓発

- ・バリアフリー2020 : 4月16日(木)～18日(土) 開催 (インテックス大阪)
- ・ウェルフェア 2020 : 5月14日(木)～16日(土)開催 (ポートメッセなごや)
- ・ヨコハマヒューマンテックラント'2020 : 7月24日(金)～25日(土) 開催 (パシフィコ横浜)
- ・国際福祉機器展 2020 : 10月21日(水)～23日(金) 開催 (東京ビッグサイト)

④ 「はたらくワンワンランド」実施

「ガンバレ！介助犬！JA共済はたらくワンワンランド」を、全国で展開する。

⑤ イベント・講演会の引き受け

支援企業等からのイベント・講演会の依頼を受け、職員・PR 犬の派遣を行う。併せて、デモンストレーターをはじめボランティアスタッフの育成・活用を行う。

⑥ 企業タイアップ大型企画の実施

読売巨人軍および菅野智之投手(介助犬サポート大使)とタイアップし、東京ドームでの募金活動、チャリティ商品の企画・販売を行う。

⑦ 街頭募金活動の実施

(2) PR 犬の育成・訓練

啓発活動を行う PR 犬の育成・評価、訓練を行う。

(3) マスコミ対応

- ① 新聞やテレビ番組などのメディアに対し映像・写真素材の提供を行う。各種メディア掲載実績をホームページで公開する。
- ② ACジャパン等の広告の活用を検討する。

(4) 会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

魅力ある会報紙面・ホームページ、制作物を作成し、支援者獲得、チャリティグッズ販売促進へ繋げる。漫画「介助犬ライカ！」および着ぐるみ「ウィズ」を効果的に PR に活用する。

(5) SNS(ツイッター・フェイスブック・インスタグラム)の活用

ツイッター・フェイスブック・インスタグラムの各特性を活かした情報を発信し、支援者とのコミュニケーションを図り新たな支援者獲得を目指す。

(6) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

リハ専門職の介助犬への理解を深めるため、関連学会へのブース出展、デモンストレーション等の機会を得る。

【2020 年度学会一覧】

2020 年 1 月 24 日現在

学会名	日程	開催地
第 59 回 国際脊髄障害医学会	2020 年 9 月 2 日(水)～4 日(金)	パシフィコ横浜(神奈川県)
第 55 回 日本脊髄障害医学会	2020 年 9 月 5 日(土)	パシフィコ横浜(神奈川県)
第 13 回 日本身体障害者補助犬学会	2020 年 11 月 7 日(土)～8 日(日)	大東市(大阪府)

(7) ボランティア向け講習会・交流会等を実施する。

3.公益的な活動

- (1) DIを導入している以下の機関へのハンドラー指導を継続的に行う。
機関名:聖マリアンナ医科大学病院、箱根病院、楓の丘こどもと女性のクリニック
- (2) 聖マリアンナ医科大学病院、箱根病院、多摩病院、野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンターにてDI活動を実施する。
- (3) With You プロジェクトとして、障害児向けイベントの開催及び、障害児・者に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬の譲渡を行う。
- (4) DI犬の候補として海外より2頭の成犬を導入する。(助成金を活用)
- (5) DIを希望する専門職・専門機関からの相談に応じる。

※DI:Dog Intervention(特別に評価及び訓練をした犬を医療現場等に介入させること)

4.相談・指導助言

介助犬希望者がより正確な情報を得られるように、体験会・相談会、体験入所等のプログラムの充実を図る。

- (1) 介助犬希望者への相談支援
 - ① 介助犬に関心のある障害者を対象に、毎月の見学会に合わせて相談会を実施する。
その他体験会を年2回開催、見学会と体験会および体験入所等を同時開催する。
 - ② 半年から1年後に合同訓練を開始する候補者を対象に、春と秋を目途に体験入所を実施する。その他必要に応じて実施する。
 - ③ 北海道せき損センターにおいて介助犬希望者を対象として相談会を実施する。

5.調査研究

障害者が介助犬等との生活をより円滑に送るための研究調査を行う。

- (1) 各学会への参加、演題登録
2020年11月7日(土)、8日(日)に大阪府大東市にて開催される第13回日本身体障害者補助犬学会への参加、学会団体会員に加盟し一般演題発表を行う。
- (2) リハ専門職等との補助具の開発
横浜市総合リハビリテーションセンター等のリハビリテーション工学士・企業と介助犬使用に関する補助具の研究を行う。

6.補助犬関係団体協力

良質な介助犬を育成するため、補助犬関係団体と訓練犬確保、繁殖情報の交換や繁殖協力関係の強化を図る。

(1) 補助犬育成団体との連携

- ① 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会、兵庫介助犬協会等との繁殖、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努める。
- ② 日本身体障害者補助犬学会への協力を行う。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を充実させる。

- ① ADI(Assistance Dogs International)の査察を受ける。また、ADI Conference (クロアチア)へ職員を派遣する。
- ② Kyno-Logisch(スウェーデンの盲導犬育成事業者)へ飼育委託しているDI候補犬2頭の1歳齢での導入に向け、随時状況確認を行う。
- ③ Career Dogs Australia と犬の導入等についての相談を行う。

7.補助・助成申請

(1) 令和2年度事業

助成事業(決定)

- ① 全国生活協同組合連合会:200万円
全国労働者共済生活協同組合連合会:100万円
事業名:動物介在療法・動物介在活動の実施、及びその活動に適した犬の導入
- ② 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金):20万円
事業名:遠隔地の肢体不自由者への介助犬相談・啓発活動

助成事業(申請中)

- ① 日本郵便年賀寄附金:2,295,000円
事業名:介助犬総合訓練センターを利用する障がい者の送迎・移動のための福祉車両購入

助成事業(申請予定)

- ① 愛知県:12万円(予定)
事業予定:愛知県内における介助犬啓発事業
- ② 長久手市:30万円(予定)
事業名:介助犬広報啓発事業
- ③ 中部ウォーカーソン:申請額未定
- ④ 長久手市ふるさと応援活動支援事業:申請額未定

8. 管理・運営

(1) 理事会・評議員会の開催

社会福祉法その他法令に沿った法人運営を適切に行う。

(2) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

安定した事業運営基盤の確立に向け、寄付収入および賛助会員数増加のためのファンドレイジング施策・コミュニケーション施策を検討、実施する。

- ① 法人会員・法人支援者への直接訪問回数を増やし、新規支援の獲得を目指す。
- ② 主にマンスリー会員数の増加を目指し賛助会員の新規入会促進施策を検討、実施する。
既存会員の継続のため会報やイベントを通じた会員とのコミュニケーションの充実を図る。
- ③ 収益事業を拡大し、社会福祉事業へ組み入れる寄付額の最大化を目指す。
- ④ キャッシュレス化による常設募金箱からの寄付額減少に対し、対応策の検討を開始する。

(3) 計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センターの建物診断及び建物維持保全にかかる改修計画策定に取り組む。
保有車両について、最適及び計画的な保守に努める。

(4) 業務効率化とコストダウン施策の検討・実施

限られた経営資源を有効活用するため、業務の見直しを図り業務効率を向上する。併せて、経費節減施策を検討、実施する。

(5) 労働環境の整備と法令の遵守

働き方改革等の法令を遵守し、職員の働きやすさを実現するため、就業環境の見直し、整備を行う。

9. 人材育成・研修

(1) 訓練技術向上

飼育管理担当者、パピー担当者等のすべての訓練部職員が OJT により犬のハンドリング技術の向上を目指す。また、目指すゴールの明確化、訓練犬の評価方法の見直しを図り、訓練技術向上に努める。

① 訓練士の育成

訓練担当者への OJT の他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図る。

② 研修生の募集

第 16 期研修生を募集する。

(2) 研修

① リハビリテーション関連、犬関連に関する研修会へ職員を派遣する。

② Career Dogs Australia Lauren Elgie 氏より、繁殖・パピー育成プログラムについてコンサルティングを受ける。

③ 広報活動に必要な技術向上のため、セミナー等へ派遣する。

④ 階層別研修を行う。